

報 告

## 731 部隊関係者等の京都大学医学部における博士論文の検証

### Verification of the doctoral theses in the Faculty of Medicine, Kyoto University upon the involved in 731 Unit and so forth

西山勝夫

Katsuo NISHIYAMA

滋賀医科大学

Division of Occupational and Environmental Health, Department of Social Medicine,  
Shiga University of Medical Science

#### 抄録

- 【目的】** 京都大学（以下、京大）医学部と戦争医学犯罪の関連の検証の一環として、旧日本軍関東軍防疫給水（731）部隊に加担した京大の医学博士学位論文を検証。
- 【方法】** 京大蔵書検索 KULINE、京大附属図書館（以下、京図）医学博士論文カード、国立国会図書館（以下、国図）蔵書検索・申込システム、国立公文書館所蔵資料検索システム、国立公文書館デジタルアーカイブズによる学位論文の検索と学位論文などの閲覧。
- 【結果】** 得られた論文情報の中で主なものについて、国図の授与年月日情報順に著者別に学位論文の内容や授与状況の概要を表にまとめた。①大正年間の京大の学内規程では、学位論文は3部提出（医学部図書館、京図、文部省〔現在は大部分、国図に移管〕）。医学部にはない（2011年8月5日現在）。京図か国図一方のみ所蔵あるいは内容・学位授与日の不一致の論文の存在。②陸軍軍医学校防疫研究室報告を学位論文として（含む、改竄）提出した者9名、内7名は戦後（最近は1960年）。③㊟等の論文の提出者は8名（内3名はカードにも㊟等の記載）、内3名は戦後。海軍軍医学校の論文も存在。④陸軍軍医学校防疫研究報告2（743, 758, 910, 917, 920）等。
- 【結論】** 京大、国会図書館の論文検索で新たに明らかになった論文もあったが、全面的検証のためには更なる情報の収集が必要。

#### Abstract

Verification of the doctoral theses in the Faculty of Medicine, Kyoto University upon the involved in 731 Unit and so forth

Objectives: To study the medical doctoral dissertation, Kyoto University upon the involved in "731 Unit" and so forth, as part of verifying the participation of Kyoto University in the medical war crime during the so-called Sino-Japanese war.

Methods: To browse the Kyoto University Library Network (KULINE), the medical doctoral dissertation cards in Kyoto University Main Library, the National Diet Library Online Public Access Catalog (NDL-OPAC), the Digital Archive System in the National Archives of Japan in order to search and refer the dissertation.

Results: A table summarizes the main resulting information. Three copies of the dissertation shall be submitted according to the rule of the Kyoto University. Reportedly, those were shared by the Ministry of Education, the Kyoto University Main Library and the Medical Library, Kyoto University. Later the one shared by the Ministry of Education was transferred to the National Diet Library. Other one in the Medical Library was discard. There

are some dissertations that are archived in either the Kyoto University Main Library or the National Diet Library. There are some discrepancies of information of each dissertation retrieved through KULINE and NDL-OPAC. Nine dissertations include some Reports of the Department of the Epidemics Prevention, Army Medical School and 7 of them were awarded the PhD degrees after the World War II (The latest was in 1960). Eight dissertations include the theses with some kind of secret mark and 3 of them are classified as secret among the medical doctoral dissertation cards in Kyoto University Main Library. Also other 3 of them were awarded the PhD degrees after the World War II. One dissertation was from the Naval Medical School. Newly identified papers are Reports of the Department of the Epidemics Prevention, Army Medical School 2(743, 758, 910, 917, 920) etc.

Conclusion: There are some newly identified papers through the retrieval in the Kyoto University Main Library or the National Diet Library. However, for the full verification of the history awarding doctorates, it is still necessary to search the further information.

キーワード：戦争医学犯罪、石井四郎、京都大学附属図書館、国立国会図書館、国立公文書館

Key words : medical war crime, ISHI I Shiro, Kyoto University Library, National Diet Library, National Archives of Japan

## Correspondence

NISHIYAMA Katsuo

Division of Occupational and Environmental Health,  
Department of Social Medicine, Shiga University of  
Medical Science, Seta, Tsukinowacho, Otsu, 520-2192  
Japan

### 1. はじめに

著者は本誌において、戦前・戦中の日本産業衛生学会の活動と戦争責任を論じたが、その後日本の医学医療全般を対象として共同研究を進めてきた。その結果<sup>1-3)</sup>を踏まえ、『「15年戦争」への日本の医学医療の負担の解明』(以下、拙稿)<sup>4)</sup>においてでは、「15年戦争」期における日本の医学犯罪、日本の医学界と戦争期における医学犯罪の関係に触れ、「何が日本の医学界の戦争責任として問われるか」を明らかにし、米国、政府、日本医学界は戦後、医学犯罪に対してどのように対処してきたかという経緯を述べ、未解決の日本医学界の戦争責任問題に向き合う意義、課題を論じた。結論においては、日本の医学会・医師会の当面の課題としては、歴史の真相の解明に必要な資料や証言の国内外からの収集整理と開示のための取り組み、全国の大学における医の倫理の徹底した教育の促進、各医学会における学会の歴史の検証の促進があげられる、と述べた。

拙稿及び同引用文献において京都大学(以下、京大)の占める位置が極めて大きいことが概観できるが、京大による検証は十分とは未だいえないといえよう。京

大は、1897(明治30)年にわが国第2の帝国大学として創設された。医学部の一期生は1903年卒であった。京大創設の100周年記念事業は、京大医学部出身の井村裕夫京大総長の下で行われた。その時も上記課題の検証の絶好の機会と思われたが、触れられることはなかった。井村裕夫元京大総長を会頭として、2015年に日本医学会総会は京都で開催されることになっている。「戦争と医の倫理」の検証を進める会は、井村裕夫会頭に「第29回医学会総会の企画に関する要請」<sup>5)</sup>を2012年2月にしているが全く返事がないまま今日に至っている。

奈須重雄<sup>6)</sup>(NPO法人731部隊・細菌戦資料センター)が、731部隊員であった金子順一が著者である東京大学医学博士学位論文の存在を2011年に確認し、知られていなかった細菌戦が明らかになるなど医学者・医師が細菌戦を実行していたことが新たに実証された。金子順一には医学博士号(東京大学)が1949年1月10日に授与されている。奈須<sup>6)</sup>は「(同論文が)国会図書館京都分館(ママ)に所蔵されている」と述べている。常石敬一<sup>7)</sup>は国会図書館関西館の検索により陸軍軍医学校防疫研究報告の著者の中で学位を授与された者が33名いること、1949年に授与された者が1名いると述べている。その1名は、15年戦争と日本の医学医療研究会の「陸軍軍医学校防疫研究報告」プロジェクトチームにおける常石報告によれば「一条泰一. 脳脊髄液糖量の変化に関する研究. 新潟(国会図書館請求番号UT51-61-H303)」と考えられ、金子

論文は検索されていなかったといえよう。

著者は、金子論文の所在がなぜ 2011 年に明らかになったかに疑問を持ち、国会図書館関西館での閲覧、東京大学学位論文データベースの検索、東京大学総合図書館や東京大学医学部図書館などの担当者とのやり取りを行ったが、疑問を解くに至っていない。最近の博士論文については学位論文の内容及び審査の結果の要旨が電子化・公開されているが、当時のものはそこまで至っていないことも明らかとなった。

他方、この出来事から、731 部隊関連論文で検証されていない博士学位論文がまだ全国的に存在し、その中には所在が明らかでなかった著作もあり得ることや学位授与及び学位論文公表の過程の解明も上述の検証課題の一角をなすであろうという示唆を得た。

京都に住み、京大を卒業した者として、京都大学の博士の学位論文の検証に自ら着手すべきであり、調査上有利な条件にあると考え、パイロットスタディ的アプローチを試みたところ、東大に比べてより詳細な歴史の真相の解明に必要な資料が未解明のままになっている感触を得たので、本格的な調査を行うことにした。

本稿の目的は、歴史の真相の解明に必要な資料の収集整理と開示のための取り組みの一環として、旧日本軍関東軍防疫給水部隊（以下、731 部隊）に加担したあるいは加担したとされる京大医学部卒業生等の医学博士学位論文（以下、論文）を明らかにし、学位を授与された者の学位授与過程を明らかにすることとした。なお、その過程で 731 部隊に類する論文の検索にも努めることとした。

## 2. 方法

1) 対象となる論文の著者は、15 年戦争と日本の医学医療研究会での共同研究、「戦争と医の倫理」の検証を進める会などであげられたり、予てより疑わしいと考えられたりしていた京大関係の医学者・医師とした。検索から漏れぬようにするために、京都大学博士学位論文データベース（以下、京大論文 DB）でキーワードとして著者名を用い、論文を検索した。京大論文 DB の検索では学位授与年ごとに全博士論文を一覧表示できるので、731 部隊長であった石井四郎が学位を授与された 1927 年以降については暦年ごとに旧制学位（1960 年迄）の全件の著者名、論文名に目を通し、医学犯罪との関連が示唆された論文を同時に抽出した。

2) 抽出された論文は、すべて京大附属図書館の貴重図書であった。京大附属図書館レファレンス掛によ

れば、京都大学では学位申請者は論文 3 部提出することになっており、文部省、京大附属図書館、京大医学部図書館に収められることになっていたが、京大医学部図書館分は既に廃棄処分されているとのことであった。そこで、貴重図書の論文について所定の手続きを経て閲覧したが、複写は不可であった。一部の論文については、折衝の結果許可された「表紙の指定業者による写真撮影」を行った。

3) 京大論文 DB で確認されなかった論文の検索と京大論文 DB 情報や論文現物の記載内容の照合のために京大附属図書館医学博士論文カードを検索した。

4) 京大論文 DB で確認されなかった論文の検索と京大附属図書館医学博士論文カードの照合及び京大論文 DB 情報や論文現物の内容確認のために国立国会図書館蔵書検索（以下、国会図書館 DB）で、検索できた論文については国会図書館関西館で複写した。

5) 論文中の陸軍軍医学校防疫研究報告については、不二出版の復刻版<sup>8)</sup>と照合した。

6) 京大医学部の同窓会に当たる芝蘭会の会員名簿との照合により抽出された著者の卒業年を調査した。

7) その他に、京都大学 100 年史<sup>9)</sup>などを参考にした。

## 3. 結果

### 3-1. 主要な抽出情報

得られた情報の中で主なものについて、京大論文 DB の学位授与年月日情報順に著者別に論文の内容や授与状況の概要をまとめたのが表である。なお、京大論文 DB では見いだせなかった者については国会図書館 DB の学位授与年月日を採用した。整理番号は著者が付けたものである。

①は論文の著者名、すなわち学位を授与された者 42 名の氏名である。731 部隊長であった石井四郎以降に学位を授与された者は 33 名である。調査で新たに抽出された者としては杉橋豊次、出井勝重がある。京大論文 DB、国会図書館 DB の両方で見いだせなかった者は川上漸（1909 年卒、以下年卒略）、戸田正三（1910）、小野寺義男（1927）、神田弘輔（1938）、巽庄司、坂東太郎、多幾山琢二（1939）、伊藤那之助（1940）、岩崎光三郎、佐藤東明（1941）であった。

②～⑥は京大論文 DB から得たものである。②は京大附属図書館の参照番号、③は閲覧請求時の請求記号である。各番号の前の旧制 / は省略してある。④は医学博士の学位を授与されたとされる年月日である。京都大学 100 年史資料編 (3)<sup>10)</sup>によれば、1898 年の

勅令第344号<sup>11)</sup>による学位授与は1923年迄、1920年の勅令第200号<sup>12)</sup>による学位授与は1921年から1961年まで、1953年文部省令第9号<sup>11)</sup>による学位授与は1957年からと、一部重複している。本調査の著者はいずれも文献請求記号の期間が旧制となっているので、1953年文部省令第9号以前の学位規程で授与されたものといえる。しかし、舟岡省五、小林六造、富士 貞吉については1898年勅令第344号か1920年勅令第200号のどちらに拠るかは不明である。⑤は学位記番号で、京大における博士の学位の整理番号を表している。

⑦～⑬は、京大論文DBで検索された論文(貴重図書)を所定の手続きに基づき閲覧して、転記した情報をまとめたものである。論文は主論文、参考論文から成っていたが、装丁は1冊に合本され、表紙・目次が添付されているものから目次もなく各冊バラバラのものまで様々であった。また、京大医学部図書館請求記号、主論文数、参考論文数、可決日や㊦記号などを記載したタグが綴じ紐に通されるなどして添付されているものもあった。可決日は前述タグより転記した。なお、京大論文DBで検索された学位論文の内容や審査の結果の要旨は、論文には収蔵されていなかった。

⑭は京大附属図書館医学博士論文カードで㊦等の印が記されていたことを秘で示している。

⑮は芝蘭会会員名簿平成20年(2008年)<sup>13)</sup>に記載されていた各著者の京都大学医学部の卒業年(西暦年上2桁の19を省略)である。同名簿に掲載されていない者は他大学を卒業した者と考えられるが、卒業校は利用したDB、図書カードや閲覧した論文では確認できなかった。

⑯は日本陸海軍総合辞典<sup>14)</sup>において、731部隊主要幹部名簿に掲載されていた者について軍医将校(◎)、技師(○)の種別で示す。前述したように石井四郎以降に学位を授与され者は33名であるが、内731部隊の軍医将校が14名、技師が9名、計23名を占めていることが明らかとなった。

⑰は学位授与当時の京大医学部長名を示す。

⑱～㉑は国会図書館DBから得られた請求番号、学位授与年月日、学位論文の題目を示す。

### 3-2. 学位論文の有無、所在

京大論文DBのみで検索・閲覧できた者は清野謙次、久野寧、正路倫之助、舟岡省五、小林六造、富士貞吉、大田黒猪一郎、国会図書館DBのみで検索・閲覧できた者は増田知貞、林一郎、竹広登、平澤正欣と不揃い

であることが明らかになった。

戸田正三については大日本博士録<sup>15)</sup>によれば医学博士の学位を有している。これが正しければ、学位申請者は学位論文を3部提出することとした京大の学位規程が制定された1921年以前あるいは1923年迄適用された学位論文の提出の定めのない1898年勅令第344号<sup>11)</sup>によって、戸田正三は学位を授与されたものと考えられる。その他の者は学位を授与されていないと考えられる。

提出された学位論文3部の内、文部省分は大部分が国会図書館に移籍されたとのことである。国会図書館に収蔵されているにもかかわらず、京大附属図書館に収蔵されていない理由は分からなかった。京大附属図書館に収蔵されていて、国会図書館に収蔵されていない理由の一つとして、すべての学位論文が国会図書館に移籍された訳ではないことがあげられるが、移籍されなかった学位論文の顛末は分からなかった。

### 3-3. 学位論文DBの情報の不一致

京大論文DBと国会図書館DBで学位授与日、論文題目(新旧漢字以外)で一致しないものがあることが明らかになった。京大論文DBにおける論文題目が独語あるいは英語のものは、国会図書館DBでは邦訳登録されていた。国会図書館で閲覧・複写できた論文は著者ごとに全論文を収納してある封筒や箱にも国会図書館DBと同一の論文題目の全体あるいは一部が著者名などとともにマジックインクで手書きされていた。

### 3-4. 受理論文の構成の概要

陸軍軍医学校防疫研究室報告(以下、防疫研報告)を学位論文として提出した者は、野口圭一、大月明、大田黒猪一郎、平澤正欣、上田正明、三谷恒夫、宮崎淳臣、出井勝重の9名、内、野口圭一、大月明以外の7名は戦後で最近の論文は1960年に学位を授与された出井勝重の論文であった。

上田正明の論文では、防疫研報告の表紙がなく、表紙は手書きで、防疫研報告の2頁目の冒頭部分の文章が手書き謄写版に差し替えられ論文1頁目に折り込みで貼り付けられている。京大附属図書館に収蔵されている主論文4は2頁目以降活字印刷でヘッダーに2-917が印刷され、防疫研報告第2部の一部と推定できた。国会図書館で、上田正明の論文を閲覧したところ、主論文4の1頁目から全て手書き謄写版であり、本文、図表の内容は、京大附属図書館に収蔵されている主論文4と全く同一であった。京大附属図書館に収蔵されている他の主論文4件は全て手書き謄写版であったが、

国会図書館では、京大附属図書館に収蔵されている主論文4と同じ体裁であり、各論文のヘッダーには2-621、2-933、2-884、2-918が付された活字印刷版であり、2頁以降は防疫研報告第2部<sup>8)</sup>に掲載の論文と同一であることが確認された。このことから主論文4は新たに所在が確認された防疫研報告2-917といえる。

大田黒猪一郎の論文には冒頭に目次があるが、参考論文1の記載はなく、論文自体も所蔵されていない。

軍医団雑誌の掲載論文を提出していた者は増田知貞、中留金蔵、園田太郎、防疫研報以外の731部隊関連の雑誌の掲載論文を提出していた者は鈴木啓之、大田黒猪一郎であった。その他に杉橋豊次の論文検索により海軍軍医学校関係でも<sup>秘</sup>扱いの論文が刊行されていたことが明らかになった。

⑨に示すとおり、<sup>秘</sup>等の印刷あるいは捺印のある論文の提出者は、野口圭一、大月明、吉村博、杉橋豊次、大田黒猪一郎、三谷恒夫、宮崎 淳臣、出井勝重の8名であった。鈴木啓之、野口圭一、吉村博の3名については⑭に示すとおり、京大附属図書館医学博士論文カードにも<sup>秘</sup>等が記載されていた。鈴木啓之の主論文については京大附属図書館では五十部ノ七号、国会図書館では五十部ノ六号と附番されていた。

主論文1に記載された所属が731部隊関係の者は、⑩に示すとおり、鈴木啓之、野口圭一、大田黒猪一郎、平澤正欣、宮崎淳臣、出井勝重であった。

指導者として軍医学校、731部隊の者が記載されていた論文を提出した者は、⑫に示すとおり、鈴木啓之、野口圭一、大田黒猪一郎、平澤正欣、出井勝重であった。

平澤正欣は敗戦前に戦死したとされる<sup>7)</sup>(日本陸海軍総合辞典<sup>14)</sup>では1945年6月11日死亡と記されている)が、常石<sup>7)</sup>がすでに明らかにしているように、⑰国会図書館DBによれば学位授与は1945年9月26日となっている。

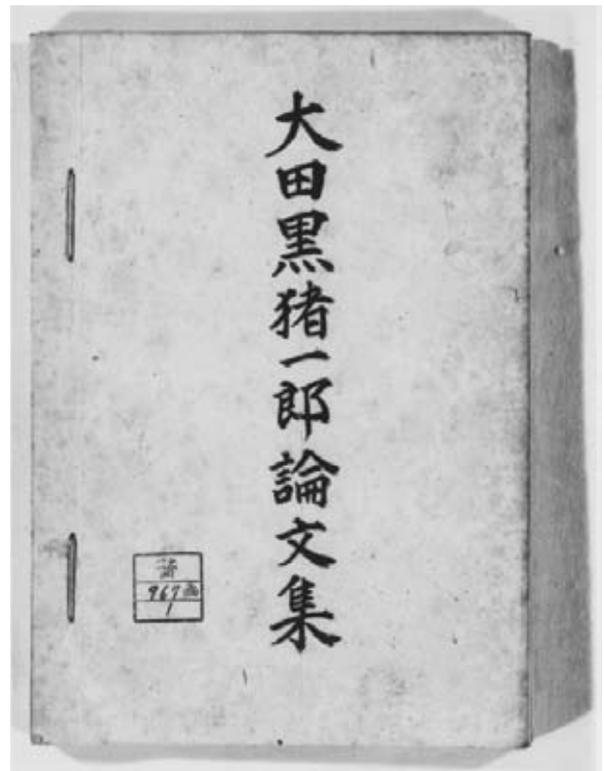
⑫、⑰によれば、論文指導、医学部長として戦前戦後の学位授与に清野謙二、木村廉、杉山繁輝、正路倫之助、舟岡省五、前田鼎、戸田正三、内野仙治、荻生規矩夫などが一貫して関わってきたと考えられる。

### 3-5. 新たに所在が確認された論文

⑨の論文番号に付した下線で示すとおり、本調査で新たに所在が確認されたもの(十五年戦争極秘資料集補巻23 陸軍軍医学校防疫研究報告<sup>8)</sup>に掲載されていない論文)としては、防疫研報告では第2部の758、780、787-789、910、917、920、929号であった。その他に731部隊関係では、鈴木啓之論文の主論文のII

- 215、参考論文4の記事II - 30、参考論文5の石井紀要1(4)、参考論文6の1(4)、大田黒猪一郎の参考論文3の南方軍防疫給水部業報丙35、吉村博論文があげられる。また、海軍省では杉橋豊次の主論文の116(5)、参考論文1、3の化研実験報告23号、参考論文2の化研実験報告5号があげられる。

大田黒猪一郎(参:京大附属図書館撮影写真)については、主論文6(防疫研報告第2部758号)、7(防疫研報告第2部920号)の所在の確認により、「炭疽ニ関スル研究補遺」を論題とする研究の全体像が明らかにされたといえる。



## 4. 考察

学位授与年月日その他の幾つかの情報が書誌文献・DBによって異なること、京大附属図書館、国会図書館の両者に所蔵されていない、あるいは同一でない論文が所蔵されていることが明らかになった。京都大学では、学位授与については、勅令第344号<sup>11)</sup>、勅令第200号<sup>12)</sup>の他に、1958年1月28日までは1921年の京都帝国大学学位規程<sup>16)</sup>以降は京都大学学位規程<sup>16)</sup>によっていたとされる。

すなわち、勅令第344号<sup>11)</sup>では「第二条 学位ハ文部大臣ニ於テ左ニ掲クル者ニ之ヲ授ク

一 帝国大学大学院ニ入り定規ノ試験ヲ経タル者又ハ論文ヲ提出シテ学位ヲ請求シ帝国大学分科大学教授

会ニ於テ之ト同等以上ノ学力アリト認メタル者

二 博士会ニ於テ学位ヲ授クヘキ学力アリト認メタル者

2 帝国大学分科大学教授ニハ当該帝国大学総長ノ推薦ニ依リ文部大臣ニ於テ学位ヲ授クルコトヲ得」と記されているように、文部大臣が授与することとなっている。

勅令第 200 号<sup>11)</sup>では「第二条 学位ハ大学ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ経テ之ヲ授与ス

第四条 学位ヲ授与セラルヘキ者ハ大学学部研究科ニ於テ二年以上研究ニ従事シ論文ヲ提出シテ学部教員会ノ審査ニ合格シタル者又ハ論文ヲ提出シテ学位ヲ請求シ学部教員会ニ於テ之ト同等以上ノ学力アリト認メタル者トス

第五条 学部教員会ハ前条ノ論文審査ニ付其ノ提出者ニ対シ試問ヲ行フコトヲ得

第六条 大学ニ於テ学位授与ノ認可ヲ申請スルトキハ論文及其ノ審査ノ要旨ヲ添附スヘシ

(中略)

第七条 学位ヲ授与セラレタル者ハ授与ノ日ヨリ六月内ニ其ノ提出ニ係ル論文ヲ印刷公表スヘシ但シ学位授与前既ニ印刷公表セラレタルモノナルトキ又ハ文部大臣ニ於テ其ノ印刷公表ヲ相当ナラスト認メタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス (以下略)」と記されているように、文部大臣の認可を経て学位を授与することとなっている。

また、京都帝国大学学位規程<sup>15)</sup>では「第二条 (略) 学位ヲ請求スル者ハ自著論文ニ履歴書ヲ添へ請求スル学位ノ種類ヲ指定シテ之ヲ総長ニ提出スヘシ

総長ハ受理シタル論文ヲ当該学部教授会ノ審査ニ付ス

第三条 学位論文ハ一篇トシ三通ヲ提出スベシ但参考トシテ他ノ論文ヲ附加スルコトヲ妨ケス (以下略)

第五条 学部教授会ハ審査ニ付セラレタル論文ニ就キ教授中ヨリ委員ヲ選定シテ之ヲ調査セシム (以下略)

第六条 調査委員論文ノ調査ヲ了リタルトキハ其綱要ニ意見ヲ付シテ之ヲ教授会ニ報告スヘシ

第七条 学位授与ノ決議ヲ為スニハ当該学部教授ノ三分ノ二以上出席シ其三分ノ二以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第八条 学部教授会ニ於テ審査ヲ了リタルトキハ学部長ハ論文ニ其審査要旨ヲ添へ総長ニ報告スヘシ (以下略)」

しかし、実際の運用すなわち学位の申請・審査・授与の決定・各著者について通知に至る過程を確認できる文書はいずれの館にもなく、いかなる経緯で京大附属図書館、国会図書館における所蔵上の齟齬が生じた

かについての解明はできなかった。

勅令第 200 号<sup>11)</sup>では「第十条 学位ヲ有スル者其ノ榮譽ヲ汚辱スル行為アルトキハ大学ニ於テ学位ニ関スル規程ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ経テ学位ノ授与ヲ取消スコトヲ得」、京都帝国大学学位規程<sup>15)</sup>では「第九条 本学ニ於テ学位ヲ受領シタル者ニシテ其ノ榮譽ヲ汚辱スル行為アルトキハ総長ハ当該学部教授会ノ議ヲ経テ文部大臣ノ認可ヲ受ケテ学位ノ授与ヲ取消シ学位記ヲ返還セシム

前項ノ議決ヲ為スニハ当該学部教授ノ三分ノ二以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス」と記されている。731 部隊員であった者については学位授与の取消に関する審議がなされてしかるべきであったとも考えられるが、審議の有無を証する文書は見つけられなかった。戦後も 731 部隊員が学位を授与されているが、教授会の議、文部大臣の認可の経緯を証する文書は見つけられなかった。しかし、戦後も 731 部隊員であった者に学位が授与されたという状況から、戦時中の学位授与の取消の議はなされなかったと推察される。

いずれにしても、これらの経緯の解明のためには、両図書館以外の文書を探索し、閲覧する必要があると考えられる。

京大附属図書館、国会図書館における所蔵上の齟齬が明らかになったことや京大附属図書館の調査で所在が新たに明らかになった論文がかなりあったことから、国会図書館のみの検索では調査は十分でない可能性があるといえる。図書館で検索可能な論文そのものについても未だ十分に調査解明されていないことも明らかとなった。今後他大学における図書館の学位論文の調査を行うことにより、所在が新たに明らかになる論文があると推察され、医師・医学者の戦争加担の事実がいっそう解明できるものと期待できる。

なお、本調査の京大医学博士の論文検索は DB 情報によるもので、当時の論文の現物を悉皆閲覧する調査は行っていない。したがって、京大の医学博士論文についても見落としがあるかもしれない。京大附属図書館所蔵の当時の学位論文は全て貴重図書であることから国会図書館以上に閲覧・複写に関する制限があることが明らかとなった。当時の論文数は莫大であったことから、何らかのより組織的系統的な取り組みが必要ではないかと考えられる。

731 部隊において倫理上問題のある研究が行われていたこと、731 部隊に属していたこと自体や行われていた研究の問題、戦後も 731 部隊に属していた者が

731 部隊における研究で学位を授与されている問題などについては拙稿<sup>4)</sup>や同引用文献などでも研究されてきたが、各大学や文部省の関与の実態は未解明のままであった。本研究は、あらたに新資料の存在を確認したに留まらず、731 部隊に加担したあるいは加担したとされる京大医学部卒業生等の大部分に 1960 年まで学位を文部省が大学を通じて授与してきたこと、学位論文の論題およびその著者名・属性等の全容を初めて明らかにした。学位授与の全過程を明らかにする資料は得られなかったものの、学位授与者の確認により、学位授与過程の調査対象者を確定できた。731 部隊長であった石井四郎以降では 33 名であり、内 731 部隊主要幹部とされる者は 23 名（軍医将校が 14 名、技師 9 名）であった。今後、これを手掛かりにした学位授与過程の調査研究が、倫理上、問題のある論文や経歴を有する者に京大や文部省がいかに関与したかを具体的に明らかにするために、必要である。

なお、本研究で閲覧できた諸論文の内容についての戦争加担や倫理上の問題などを焦点にしたレビューは、紙数も限られているので、上述の課題の解明と並行して、別途行われるべきと考える。

## 5. 結論

731 部隊に加担したあるいは加担したとされる京大医学部卒業生等の学位論文について所在する全てを明らかにすること目的として、京大図書館及び国会図書館関西において閲覧可能な論文などを調査した。所在が新たに明らかになったと考えられる論文が約 30 件あった。太田黒論文は京大図書館のみに、増田、林、平澤の論文は国会図書館のみで閲覧可能である、同一論文について両図書館の書誌情報が異なるなどの齟齬が見出され、国会図書館のみでは論文調査に遺漏がありうる事が明らかとなった。学位申請から学位記授与までの過程を解明しうる文書は見いだせなかった。しかし、学位授与過程の調査対象者は石井以下少なくとも 33 名もいることが確認できた。これを手掛かりにした各論文を構成する論文のレビュー及び学位授与過程の調査研究が、倫理上、問題のある論文や経歴を有する者に京大や文部省がいかに関与したかを具体的に明らかにするために、今後必要である。

本稿の一部は 日本社会医学会第 53 回総会（2012 年 7 月 14～16 日、大阪）ミニシンポジウム「戦争と医学」において発表した

## 文献

- 1) 土屋貴志、中川恵子、常石敬一、西山勝夫、村岡潔、岡田麗江、刈田啓史郎、蒔昭三、一戸富士雄、井上英夫、若田泰、吉中丈史、横山隆、鈴木静、Suzy Wang、三宅貴夫、大野研而、武田英希、波川京子. 日本における医学研究倫理学の基盤構築を目指す歴史的研究. 平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費補助金（基盤研究（B）No. 17320007）研究成果報告書. 研究代表者：土屋貴志. 2008.
- 2) 第 27 回日本医学会総会出展「戦争と医学」展実行委員会編. 戦争と医の倫理. 京都. かもがわ出版. 2007.
- 3) 第 27 回日本医学会総会出展「戦争と医学」展実行委員会編. 戦争と医学（日本語、英語、中文、ハンガルの各版）. 名古屋. 三恵社. 2008.
- 4) 西山勝夫. 「15 年戦争」への日本の医学医療の負担の解明について. 社会医学研究 26 (2), 11-26, 2009.
- 5) 第 29 回医学会総会の企画に関する要請. <http://avic.doc-net.or.jp/katudou/yousei120213.pdf>. 2012 年 8 月 30 日.
- 6) 奈須重雄. 新発見の金子順一論文を読み解く. NPO 法人 731 資料センター, 会報第 2 号, 2011 年.
- 7) 常石敬一. 陸軍軍医学校防疫研究報告解説. 十五年戦争極秘資料集 補巻 23 陸軍軍医学校防疫研究報告, 別冊, 不二出版, 2005.
- 8) 不二出版. 十五年戦争極秘資料集 補巻 23 陸軍軍医学校防疫研究報告 全 8 冊・別冊 1, 2004～2005.
- 9) 京都大学百年史編集委員会編. 京都大学百年史, 1997-2001.
- 10) 京都大学百年史編集委員会編. 京都大学百年史資料編 (3).
- 11) 学位令. 勅令第 344 号, 1898.
- 12) 学位令. 勅令第 200 号, 1920.
- 13) 社団法人 芝蘭会. 芝蘭会会員名簿, 2008.
- 14) 秦郁彦編. 日本陸海軍総合辞典 [第 2 版], 東大出版会 2005.
- 15) 井関九郎編. 大日本博士録第 2 巻 医学博士之部 其之 1. 発展社, 1921.
- 16) 京都大学百年史編集委員会編. 京都大学百年史資料編 (1).

表. 731 部隊関係者等の京都大学の医学博士学位の授与

整理番号	①著者 京都大学医学博士学位論文データベース						⑦主論文数	⑧参考文献数	⑨陸軍軍医学校防疫研究報告等の番号(下線:未復刻の陸軍軍医学校防疫研究報告、◎は表紙に◎が記されていたことを示す。参:以降は参考論文として提出されたものを指す)
	②参照番号	③文献請求号(略:旧制)	④学位授与年月日	⑤学位記番号	⑥学位論文の題目				
1	清野謙次	R02685	173	1915/2/9	—	Die vitale Karminspeicherung. Ein Beitrag zur Lehre von der vitalen Färbung mit besonderer Berücksichtigung der Zeldifferenzierungen im entzündeten Gewebe.	1	5	
2	久野寧	R02694	176	1916/8/5	—	「アルコール」ノ循環器系統ニ対スル作用ニ就テ			—
3	正路倫之助	R03025	259	1920/12/15	—	Über die Physiologie des osmotischen	2	3	—
4	舟岡省五	R03778	456	1921/11/11	—	動植物組織ヲ通過スル光ノ法則ニ就テ			—
5	小林六造	R02790	203	1922/3/7	—	破傷風毒素ノ動物体内ニ於ケル攻撃点並ニ其吸収経路ヲ論ジテ破傷風血清療法ニ及ブ			—
6	富士貞吉	R03727	444	1923/7/26	63	本邦家屋壁材料之衛生学的研究			—
7	木村廉	R02653	164	1924/12/17	156	比色計ニヨル溶血現象ノ研究	3	6	—
8	菊池武彦	R02658	166	1925/03/05	185	家兎摘出心臓ニ於ケル「アドレナリン」ト「アセチルヒヨリン」並ニ「ピロカールビン」トノ作用ノ相互干渉ニ就テ			—
9	杉山繁輝	R03080	272	1925/3/5	184	組織性肥胖細胞ノ超生体染色ニ就テ	13	1	—
10	石井四郎	R03111	28	1927/7/2	459	ぐらむ陽性双球菌ニ就テノ研究	3	7	—
11	増田知貞	—	—	—	—	—	6	10	参:軍医団雑誌(195,212,213,204,191)
12	中留金蔵	R03420	360	1931/9/7	934	骨質並ニ歯牙ノ生体染色ニ関スル実験的研究	1	5	軍医団雑誌(208),参:軍医団雑誌(204,207,213)
13	内野仙治	R05136	74	1932/2/12	985	Über die Wirkung der proteolytischen Fermente auf die Polypeptide	1	6	—
14	西郡彦嗣	R03510	384	1932/11/14	1087	刺激性瓦斯の循環器に及ぼす影響	3	9	—
15	園田太郎	R03134	286	1933/11/22	1198	日本住血吸虫ノ感染並ニ発育ノ上ニ及ボス黄疸ノ影響	4	6	参:軍医団雑誌(131)
16	吉村壽人	R04243	565	1936/4/8	1495	ON THE ACID CHANGE IN SHED BLOOD.	5	3	—
17	田部井和	R03173	296	1936/5/6	1502	Bacterium pullorumヲ以テスル経口免疫ノ実験的研究	9	5	—
18	内藤良一	R03396	355	1937/4/9	1633	ばくteriおふあーじ定性的檢出法各種手技ノ比較	11	12	—
19	齋藤幸一郎	R02913	230	1937/7/31	1684	A DOUBT AS TO THE EXISTENCE OF AN OXIDATION-REDUCTION POTENTIAL IN THE HAEMOGLOBINMETHAEMOGLOBIN SYSTEM.	1	3	—
20	佐々木義孝	R02885	224	1937/12/13	1721	急性腹膜炎時に於ける大腸菌の尿中出現に就て	5	1	—
21	岡本耕造	R01261	114	1938/3/5	1761	Über das Gewebeseisen.	2	1	—
22	林一郎	—	—	—	—	—			—
23	石川大刀雄丸	R03109	28	1938/3/5	1762	Studien über Reduktions-Oxydations-Potentiale	1	4	—
24	竹廣登	—	—	—	—	—			—
25	山中太木	R04634	644	1940/6/11	2011	創傷感染に関する実験的研究	1	36	—
26	湊正男	R04674	652	1940/12/9	2071	血漿培養基ニ於ケル葡萄球菌ノ研究	6	7	—
27	鈴木啓之	R04871	686	1943/2/8	2263	特種大量生産ヲ目的トスル生菌乾燥保存ノ研究	1	7	表紙軍機密 II-215, 記事 II-30 石井紀要(4), 1(4)
28	杉橋豊次	R04906	692	1943/2/25	2279	イペリットの吸収作用に関する実験報告	1	3	表紙◎, 海軍省教秘116(5) 赤表紙
29	野口圭一	R05113	733	1945/4/21	2491	弱毒「ベスト」菌ノ凍結真空乾燥法ニヨル生存保存方法ノ研究	14	3	2(208,216,262,313,444,445,464,63,1,643,682,681,787-9) 参:2(438,528,562)(216,562以外◎)
30	吉村博	R05119	736	1945/4/21	2490	北支那ニ於ケル『サルモネラ』症ノ疫学的觀察	5	9	表紙◎, 主◎, 参:2-4, 6, 8, 10◎
31	大月明	R05140	740	1945/7/20	2530	らいしゆまにあ・ドのうあにノ生物学的性状ニ関スル研究	3	6	参:2(780,674,697,856,664)(697,856以外◎)
32	平澤正欣	—	—	—	—	—			1(64,65,73,74)
33	大田黒猪一郎	R05186	749	1945/9/30	2540	炭疽ニ関スル研究補遺	7	4	2(285,286,308,273,307,758,920), 参:2(929), 南方軍防疫給水部業報丙35(◎273,753,923)
34	上田正明	R05238	761	1946/4/15	2602	粘質ニ関スル細菌生物学的研究	5	3	2(621,933,884,917,918)
35	柴田進	R05245	763	1946/6/4	2607	「マリア」ノ発生ト其ノ防遏ニ関スル研究	5	11	参:2(535)
36	三谷恒夫	R05258	766	1946/7/26	2615	グリコール類の微生物学的応用	3	2	参:2(94,93)(いゝずれも◎)
37	田中淳雄	R05346	788	1948/2/19	2686	本邦産放線菌の生産する抗菌性物質に関する研究	2	10	—
38	妹尾左知丸	R05397	798	1949/1/10	2738	鉄に関するニ三の生物学的研究	1	4	—
39	宮崎淳臣	R05427	805	1949/4/1	2765	破傷風能動免疫に関する研究	2	2	参:(910,876)
40	山田常道	R06017	926	1954/2/11	—	免疫とアレルギーの分離に関する実験的研究	1	0	—
41	植西忠信	R06095	939	1954/10/25	3385	The mode of action of CS <sub>2</sub>	1	6	—
42	出井勝重	R02029	1266	1960/2/11	5056	コレラ菌及びコレラ類似菌のオキシダーゼ反応に関する研究	5	6	参:2(552,561,571,246,551,743)(246,551,571◎)

状況の概要 (◎：731 部隊軍医将校、○：731 部隊技師)

京大貴重図書閲覧情報				⑭ 図書カード	⑮ 卒業年	⑯ 辞典・日本陸海軍総合	⑰ 医学部長	国会図書館検索情報		
⑩ 所属(主論文に記載のもの)	⑪ 肩書(最初の論文に記載のもの)	⑫ 指導教授等(最初の論文の冒頭あるいは謝辞に記載のもの)	⑬ 可決日(論文に添付されていたタグに記載のもの)					⑱ 請求番号	⑲ 学位授与年月日	⑳ 学位論文の題目
—	—	—	1915/1/21	9	—	荒木寅三郎	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	伊藤隼三	—	—	—	—
—	—	—	—	14	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	10	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	医学士	清野謙次	1925/4/29	19	—	足立文太郎	—	UT51-59-O256	1924/12/15	比色計による溶血現象の研究
—	—	—	—	19	—	—	—	UT51-59-O328	1925/3/2	京大論文DBと同
—	—	—	—	20	—	—	—	UT51-59-O331	1925/3/2	超生体染色の研究
微生物学	大学院学生 医学士	清野謙次	1928/3/27	20	◎	森島庫太	—	UT51-59-P166	1927/6/24	グラム陽性雙球菌に就ての研究
微生物学	大学院学生 医学士	木村廉	—	26	◎	—	—	UT51-59-T449	1931/9/3	沈降反応に於ける沈澱子量の数量的研究
病理学	大学院学生 陸軍一等軍医	—	1931/7/3	26	◎	—	—	UT51-59-T450	1931/9/7	骨質並に歯牙の生体染色に関する実験的研究
—	—	—	1932/1/18	18	—	—	—	UT51-59-U106	1932/2/10	ホリペプチドに対する蛋白分解酵素の作用(独文)
内科	医学士	眞下(俊二)	1932/10/6	27	◎	戸田正三	—	UT51-59-U637	1932/11/11	刺激性瓦斯の循環器に及ぼす影響
病理学	大学院学生 陸軍一等軍医	—	—	28	◎	—	—	UT51-59-V588	1933/11/21	日本住血吸蟲の感染並に発育の上に及ぼす黄疸の影響
—	—	—	1936/7/7	30	○	—	—	UT51-60-E206	1936/4/7	硝子電極法による血液水素イオン濃度の研究(英文)
微生物学	医学士	木村廉	1936/7/7	31	○	—	—	—	1936/5/4	チフス、パラチフス菌属を以てせる経口免疫の実験的研究
微生物学	大学院学生	木村廉	1937/9/15	31	◎	前田鼎	—	UT51-60-E287	—	—
第1生理学	—	正路倫之助	—	31	○	—	—	UT51-60-F241	1937/4/8	バクテリオファージ研究補遺
—	—	—	—	—	—	—	—	UT51-60-F562	1937/7/30	ヘモグロビン・オトヘモグロビン系に於ける酸化還元電圧の存在に関する疑義(英文)
外科学	大学院学生 陸軍軍医大尉	鳥瀧(隆三)	—	30	◎	—	—	UT51-60-F905	1937/12/13	京大論文DBと同
—	—	—	1938/3/12	31	○	—	—	UT51-60-K123	1938/3/3	組織鉄に関する研究(独文)
—	—	—	—	33	○	—	—	UT51-58-M226	1938/3/3	組織呼吸系の色素殊に色素摂顆粒の意義(独文)
病理学	—	清野謙次	1938/3/12	31	○	戸田正三	—	UT51-60-K124	1938/3/3	酸化還元電圧に関する研究(独文)
第2病理学	大学院学生 医学士	森茂樹	—	34	○	—	—	UT51-57-B157	1943/5/4	内分泌異常と血圧とに関する実験的研究
大阪医専微生物学	助教授	里見教授	1940/9/25	—	—	—	—	UT51-60-L380	1940/6/10	京大論文DBと同
微生物学	医学士	木村廉	1940/12/24	35	○	小川睦之輔	—	UT51-60-L554	1940/12/7	血漿培養基での細菌及トリパノゾーマの培養
関東軍防疫給水部 (本部長石井軍医少佐)	陸軍々医少佐	川島清、北川正隆	1938/2/15	秘	30	◎	舟岡省五	UT51-60-P22	1943/2/6	特殊大量生産を目的とする生菌乾燥保存の研究：鼻疽菌、チフス菌、コレラ菌を以てする実験
海軍軍医学校	海軍少佐	—	1943/5/28	31	—	—	—	UT51-61-H475	1943/2/22	京大論文DBと同
陸軍軍医学校軍陣 防疫研究室	陸軍軍医大尉	石井少将	—	秘	37	◎	—	UT51-60-Q205	1940/4/13	弱毒ペスト菌の凍結真空乾燥法による生存保存方法の研究
—	—	—	1945/4/25	秘	—	木村廉	—	UT51-60-Q203	1940/4/13	北支那に於けるサルモネラ症の疫学的観察
微生物学	医学士	木村廉	—	38	—	—	—	UT51-60-Q411	1940/7/7	カラ、アザールに関する研究
満州七三一部隊	—	石井四郎	—	33	◎	—	—	UT51-60-Q534	1945/9/26	イヌノミCtenocephalus canis Curtisのペスト媒介能力に就ての実験的研究
陸軍軍医学校軍陣 防疫研究室	陸軍軍医大尉	西澤行蔵	—	—	—	木村廉	—	—	—	—
—	医学士	—	—	—	—	—	—	UT51-61-F160	1946/4/15	京大論文DBと同
—	—	—	1946/7/1	—	—	—	—	UT51-61-F241	1946/6/5	「マラリア」の発生と其の防遏に関する研究
微生物学	医学士	木村廉	—	36	◎	—	—	UT51-61-F323	1946/7/29	京大論文DBと同
—	—	—	—	—	—	—	—	—	1948/2/19	京大論文DBと同
病理学	—	森、天野	—	40	○	荻生規矩夫	—	UT51-医29-208	1949/1/10	京大論文DBと同
伝染病研究所第一 研究部、陸軍軍医 学校防疫研究室	陸軍軍医大尉	細谷省吾 井上隆朝	—	39	◎	—	—	UT51-医29-343	1949/4/4	京大論文DBと同
—	—	—	—	39	—	内野仙治	—	UT51-医34-17	1954/2/3	京大論文DBと同
兵庫県立医科大学	産業医学	古澤一夫	—	38	◎	—	—	UT51-医34-	1954/10/12	京大論文DBと同
国立京都病院研究 検査科	—	石井四郎 田部井和	—	33	—	山本俊平	—	UT51-40-l615	1959/2/11	京大論文DBと同